

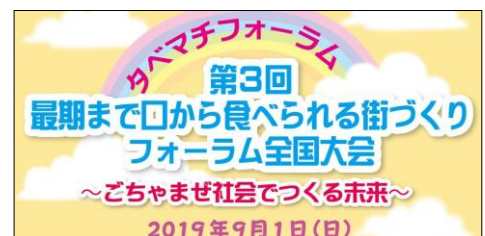
# ごとう通信

第 224 号

令和元年8月1日

梅雨が明けないかと思いましたが、明けると暑いですね。夏に入るとウダウダ暑くて汗がだらだら。ま、そうですね。ただ、一つだけ知りたいたことがあって、昔から夏は暑くて汗もかいていました。どこかで不快感が上がった気がします。以前、訪問から帰ってきて診療室の温度計を見ると40度という日もありましたが、今より不快感が少なかった気がします。何が変わったんですかね。来年、オリンピックに世界から来るトップアスリートが最高のパフォーマンスをしてほしいと思いますが、「東京の暑さに負けた」という人が続出しそうです。

さて、先月は看護師対象のセミナーを3本やりました。2本は訪問看護師対象だったので、在宅での経験を話しました。その中で、本人は「口から食べた」、家族は「食べてもらいたい」、でも医師が「食べてはいけない」と言われているというケースの話をしました。僕たちの周りではよくある話です。僕は人権の問題は全く分かりませんが、医師が「食べてはいけない」という権利があるのか？ということは考えています。実は、医療者に言われたので食べていません、食べられませんということであっても、僕たちが介入することで食べられるようになった方はいるのです。そんなことから、一般市民の気持ちから盛り上げていきたい、病院でなく地域から盛り上げたいという思



招待券（無料）もありますのでご興味がある方はお声がけください。ふれあい歯科ごとうでもご用意できます。

いから「最期まで口から食べられる街づくりフォーラム全国大会」を2年前から高田馬場で開催しています。今年も9月1日に「第3回大会」を開催します。住民

## 介護とお金

もしかしたら全く反対の意見の方もいるかもしれません。実は、日本の医療、介護の保険制度は全世界が驚愕するほど素晴らしいものです。

でも、本来使用でないものも含めて使われ過ぎて問題が起きているのが現状です。

そもそも医療制度は確立していた中で介護保険制度は始まりました。その中で、国民の介護を一般化したことは間違いなく成果です。今だと分からない方もいるかもしれませんが、「介護Ⅱお嫁さん」という時代もあったのです。そこにいろいろなサービスができ、介護保険を使うとうまくやっていく方法ができました。ところが、最近、介護に関して疑問を持ってしまう2つの出来事がありました。1つは、98歳の女性で一人暮らし、自分の食事は全部自分で作られるので、ホームヘルパーさんが食材を買いに行くようにされています。ただ、高齢だし火を使ったり包丁を使われるので、ケアマネ

ジャーさんが心配をして、宅配弁当サービスを導入し、ご本人が調理をしなくてもよい環境を作ってくれました。実は介護保険の理念は「自立支援」です。お手伝いさんではありません。これは正しいのか、それとも出過ぎたことのか？

もう1つ。高齢者に対する宅配弁当サービスは基本的に介護保険外サービス。高齢者に内容も栄養も形態も調整したものを自宅まで届け、安否確認などのサービスもあるのに500円ちょっと。保険外なので会社にそれ以上のお金は入りません。だからこそ、配達する方のコストは安く、同じことができる人はピザの配達などに行くそうです。今、コンビニ弁当はいくらですか？それを持ってきてくれたらいくらですか？生活の中で自己負担が増えらるとす

ぐにニュースになります。医療や介護の話だと「命が不安」などという言葉がメディアで浮かびます。そのため苦労させられている方がいることは国民として知らなければなりません。「安いから使う」はなさなければ良くなりません。

人が動くとお金が動きます。そのお金を保証してこそ先進国です。医療はまだ恵まれています。日本がもつといい国になるためには、介護の現場で「必要だから使う」とともに「お金を出しても使う」がいなければならぬと思っています。

来春からふれあい歯科ごとに参加してくれる管理栄養士と日本の介護や制度についても話をしています。日本の介護は変えていきたいです。こんな小さな診療所が社会を変えることが出来たら面白いですね。